

宮崎市出身の瑛九（本名：杉田秀夫）は、画家であるとともに、写真家、文筆家、評論家、エスペランティストなど様々な側面をもっています。16歳から本格的にはじめた美術評論や、19歳から盛んに投稿した写真評論は、専門雑誌にも掲載されています。また、宮崎県の実業協会発足時には「地方美術発展のために」と題し、美術協会に期待することを新聞に寄稿しています。交流をはじめた画家たちと新たな美術グループを作り、展覧会評などを通じて若手作家を鼓舞する活動もしました。

瑛九が40歳を迎える頃になると、瑛九のもとには若い画家や写真家などが集うようになりました。彼らにとって、瑛九の語る芸術論は大変刺激になりました。年の差など気にせず、対等に議論を交わすことができる相手としても得がたい人物だったのです。

ここでは、瑛九が芸術への想いや生き方について語った言葉を、初期の作品から画家として最も充実していた1950年代の作品とともに紹介します。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	瑛九	1911～1960	眼	1936（昭和11）	27.6×23.0	フォト・コラージュ
2	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936（昭和11）	22.1×27.1	フォト・デッサン
3	瑛九	1911～1960	作品	1936-37（昭和11-12）	27.8×22.4	フォト・デッサン
4	瑛九	1911～1960	卓上の静物	1934-35（昭和9-10）	33.5×45.8	油彩
5	瑛九	1911～1960	マッチの軌跡	1936（昭和11）	53.2×45.7	油彩
6	瑛九	1911～1960	よひぎめ（よいどれ心理）	1937（昭和12）	33.9×46.0	油彩
7	瑛九	1911～1960	ギターを弾く少女	1943（昭和18）	90.0×71.5	油彩
8	瑛九	1911～1960	酒場	1944（昭和19）	25.6×29.6	油彩
9	瑛九	1911～1960	二人	1949（昭和24）	73.2×61.0	油彩
10	瑛九	1911～1960	題不明	1951（昭和26）	22.8×15.8	油彩
11	瑛九	1911～1960	作品	1951（昭和26）頃	45.6×38.0	油彩
12	瑛九	1911～1960	だだっこ	1954（昭和29）	90.7×64.8	油彩
13	瑛九	1911～1960	丸のあそび	1958（昭和33）	155.7×91.5	油彩
14	瑛九	1911～1960	ブーケ（花束）	1959（昭和34）	162.0×130.3	油彩
15	瑛九	1911～1960	田園B	1959（昭和34）	130.7×194.0	油彩
16	瑛九	1911～1960	赤いシグナル	1956（昭和31）	35.2×23.2	リトグラフ
17	瑛九	1911～1960	れい明	1957（昭和32）	52.9×42.0	リトグラフ
18	瑛九	1911～1960	少女(B)	1952（昭和27）	23.7×17.9	エッチング
19	瑛九	1911～1960	ささやき	1953（昭和28）	23.6×18.2	エッチング
20	瑛九	1911～1960	眼	1952（昭和27）	21.0×15.2	エッチング

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
21	瑛九	1911～1960	『瑛九デッサン集』	1946（昭和21）	23.6×26.6	水彩
22	瑛九	1911～1960	題不明	1940（昭和15）	24.1×27.1	水彩
23	瑛九	1911～1960	題不明	不明	24.1×27.1	水彩
24	瑛九	1911～1960	題不明	不明	24.1×27.1	水彩